

1976年度

冬山合宿

報告書

(大日尾根より)

明・立山

室堂下山

16 12/18

~'77 1/2



信州大学

伊那松本山岳部

目次

- 1 リーダーの言葉
- 2 メンバー
- 3 行動表
- 4 行動記録
- 5 各係の反省 (天気図)
- 6 個人の反省

冬山所感

やはり剣はきびしい山でした。後半に藁、2王天
大霧波のせいもあるでしょう。しかしやはり冬山にしてみれば
異常な出来事でははいはず。前半は雪が少く特に
稜線直下の雪壁は安定して2スーズに通過でき、
天候のぐずれるまでに、十分な Essen, ガソリン、体力
気力を残しておいた事が今回の無事下山の1つの要因で
あったと思えます。しかし前半の行程で予備を使っていたら、剣
attack etc ほどかたむかしたと言っているのではありません。
これその可能性は今の状態ならやはり、十分考えら
れるでしょう。

仮に大日の稜線まで行けばいい状態、おなわち入山
が1週間遅れていたらの場合であら、目標が、剣立山の
attack、大日稜線の縦走にあるのであれば、山行自体
は不成功に終わったに違いありません。しかし合宿的
な立場から見れば、稜線に立ってよくて、十分役立つ
場であったと思えます。今回はあまり、雪上技術、
生香技術の指導、特に一年生に対しては、静かになら
ないように思えます。小生が一年生の時も、去年の事故後の
指導体制の反省の頃と比べたところ……。

やはり上級生を体力的、精神的にまわっていたのであ
らう。本当は合宿として、それは望ましくないと思うので
すが、今とっては、それも一つの思い出とあててしまいま
した。

どうも最近の我が村には、視界がまたはいと、とんどおほい
方向に進む傾向にあります。また小屋使用の事であら、使
おうか使わないか、そんなことはその時の気分にゆだねら
れるでしょう。小屋の横でムリにテントを張るのさ
あはれ光景です。

今回の冬山合宿は、無事下山をもち、一応成功しました。
あとと報告書がまだ残っています……。
そして何よりお大事な事は、あの状態での剣立山 attack、

胸まのうっせいに12a下山、ほとこの体験から得られる
自信はほほ12aほうな。そち3m 剣 attack, 室戸- 1a
下山は最良の方法 及 言えば、何なひらがる所もありません、
しな "うちのクラブ" とか "自信をもてる" 事 確かな事。
それな何より収穫 あり、eden の使い方も etc.....
及 "カールス" にな、2ま事 ほとほ、それにな、たら小エ
もあす。しな直さなければならは 11 ことすな!
今後の登山、来年度の山行にこの体験を生かすは
しなは冬山を たた "何となく 終え" 1 した こと なるほう。

Yoshiaki Sugai

期間 1976, 12, 18 ~ 1977, 1, 2
(行動 11 日, 花殿 5 日)

参加 Member
各係
CL 須貝寿志明 (A.4.IV)
SL 古橋孝夫 (A.4.IV)

裝備 部田 信人 (M.3.III) 片山博彦 (A.2.II)
藤本 泰弘 (S.1.I) 羽鎌田 学 (A.1.I)

Essen 藤元 治朗 (M.4.III) 二俣 勇司 (L.2.IV)
梱包 下田 章 (A.2.II) 田中 誠司 (A.1.I)

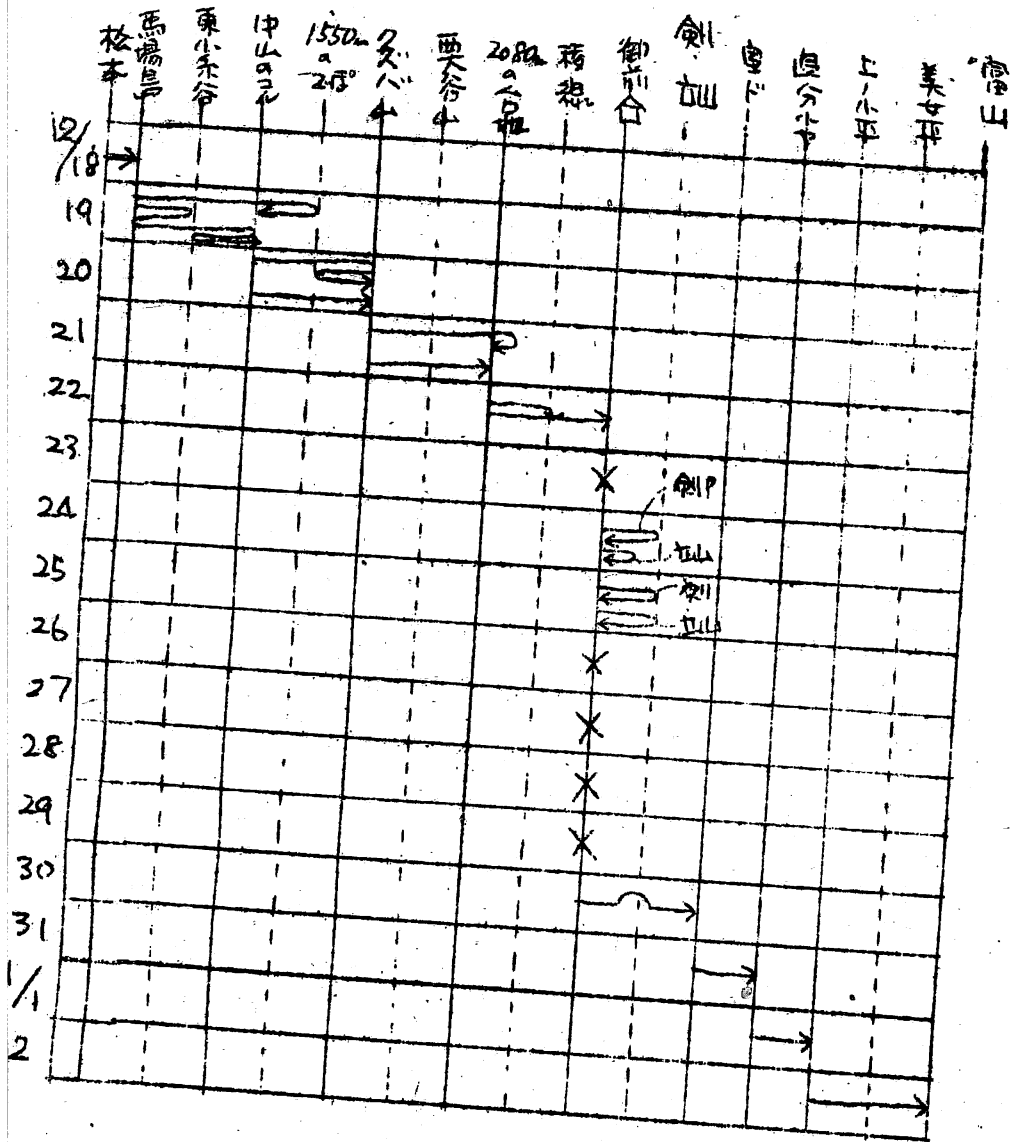
会計. 志外 片山, 氣象 古橋

医療 藤本 記録 下田, 羽鎌田

助人 吉田 秀樹 (L.4.V)

以上 11 人

行動表



❁ 行動記録 (副題 嗚呼花のラッセル)

12月18日 ○→◎

松本(6:00) → 滑川 → 上市 → 伊折(13:45) → 馬場島(16:30)

伊折からの道は雪がほとんどなく、剣がよく見える Spich 2。
馬場島に着く。警備隊の人たちの話では今年には雪が少いとの話
今冬2番の入山(1番は専修大の赤谷尾根)。1つ1つの入山
が、剣の怒を買った。天の及、雨を降らしてやら、2. みたすら雪にな
ることを感じ、2 悔た。

12月19日 ⊗⇒⊗

A 先発隊 L 古橋、吉田、藤元、片山

馬場島(6:30) → 中山ゴル手前(8:30) → 1550m地点Depo(12:30~13:10) → 中山のゴル手前(14:00)

康小系より立山川の本上流の沢に取付き、途中より、左の尾根を越え、
康小系谷に入り、ゴル目指して登る。エールを右手に見てみたすらラッセル
ある程度は尾根らしい所もあるが、斜面(なほ)急)の登りが主。また雪の
液面30cmくらいが、堅くボロボロ落ち込み泣く。Depo地で後発隊
を待つべく、休むを及ぼして待たせ、下降して、中山のゴル手前に本隊をDepo
したったテントを設営した頃には本隊が帰った。

B 本隊 L 須貝、師田、二俣、下田、羽鎌田、田中、藤本

馬場島 → 中山Depo地 → 中山のゴル手前

7:30 → 8:25 → 13:05
9:40 ← 10:30 ← 13:35 ← 15:00

先発隊のトレール通り立山川より少し入ったところに1回目の荷物をDepo
してまた、馬場島に戻る。入る沢を一本市置えた(先発隊はゆざとどう
しを言うが)先発Pののしりたたら小エの斜面を急降下して、稼
げ高さを0に12(まう。中山のゴルのところ)二俣、下田で先発Pを
呼びに行くとゴルがたたく。我々もDepo回収に行くことに
なり、下り、雨の思ひで戻る。おれがたいたにテントは立ってあった。

* 剣のラッセルとは、こいつはもんや。こいつは剣の雪、天気、ラッセルの苦
(さ中、1つ1つ、まだまだこいつはもん(や)な1つ、みんながバツヤ
景色なんな1つこ見えん。みたすら登るんや、そして剣へ行くんや
そして富士山に帰るぜ! (古橋記)

12月20日 ㊦ - ㊦ - ㊦ 時々風あり

A 先発隊 L 須貝、師田、二俣、下田

中山の北の干場(6:50) - 1550mのDepo地(8:50) - クスバ山(11:35) - 1550mのDepo地(13:15) - クスバ山(14:07)

2pickでテポ地に着き、テポはそのまま(2行c. 1650m) 往は、尾根の傾斜がまじく、尾根なせせり上。其山側に雪の太ま(1とこ3と2m) クスバ山で天場を見つけ、ゆくり休んで、テポを回収しに行く。少下で本隊とすれ違う。1Pick弱でテポ地に着き、クスバ山に向う。

B 本隊 L 古橋、吉田、藤元、片山、田中、藤本、羽鎌田

T.S.(7:45) - D. 北地台(10:10) - クスバ山(13:05)

最初から急登で、アハアハ(1)2登りました。ハイ、天気はくもり211すけど、ゆり地あつ(12)11ました。途中からトレスが雪のため、消えなちとあつ(2)少(ラッセルを)しました。クスバ山ではくもり211たので、視界はほとんど見えませんでした。

*ラッセルはたいたいひざ位まで。1650m ~ クスバ山 向は、雪の状態等2、ヤバクなりそうなお祈りもある。残置F×あり。

雪には注意しよう (二俣)

ひ下すら足もと雪を食ひながら登った1日でした。展望もまたずボツカにあけくわえという感じ。シビア、シビア、バテマシタ、はい。(羽鎌田)

12月21日 ㊦ - ㊦

A 先発隊 L 古橋、吉田、二俣、羽鎌田

T.S.(6:40) - 西大谷山(11:00) - 2080m台地(12:30) - 奥大谷の尾根途中(13:30) - 2080m台地(14:10)

樹林の中のアセルはつなれる。枝が通し2は雪がな気になるし、(1)及(水)川よりを少しまげば、ほとんどなる所々あり助る。樹林にはやまエウなから、ほとんど西大谷山の、尾根は、あれもわからず、ま113た、突然平な開けた所におる。之とこ3じ也。尾根の取付まで、ボカボカと、とれなら、ゆくりと稜線まの偵察に行きました。

B 本隊 L 須貝、藤元、師田、片山、下田、藤本、田中

T.S.(7:55) - 西大谷山(12:30) - 2080m台地(13:15)

奥大谷、大谷をmappingして、西大谷山を目指す。尾根をup、downして、雪あり、樹林帯のうら11、うら11道を行く。ワカンをは112も、トレスを踏みはずすとた11ん癒れる。このあたりで、剣さ、毛勝をよく見えたもちろん西大谷は、すべ2をさすだけ211る30。

ように、見えた。西大谷山を通過して、谷地上の尾根（ひまわり）より来る
 先発PとCallを交わすなどとはなほ多々。2080mを越えてつぎは大谷
 に向った先発Pとコールを交し、テントを張る。16:00すぎに雪が降る。
 *ここは2000mもあるからやはり寒いですが、足が冷たい。アザが
 多い。まよりの荷物は重たうた。後は飯食って眠る
 だけ。11日寝るとお正月 (田中)
 1年目をふくこのラッセル、別にといった感じ。12日1年目には
 こたえるらしい。積り林帯のラッセルで灰もあるかな。ななほみは
 さんだのよい。ええ1日でした。明日もがんばらう。あたんは、
 わたしとしんぞい みんぼる。しんぞい ははたんは3人
 (古橋)

12月22日 ◎ → ⊗

A 先発P L古橋、下日

T.S. (6:40) - 2550mのイ/L (8:40) - 稜線 (10:30)

あと本隊と合流

2人でラッセルを（ほからの登り）、2人とはほとんど新しいことなfixを
 どんどん登る。エルフの斜面をどんどん登る。最後の雪面(約200
 m)の下部でfixを用意し、工作。35mほど進んでスノーバー（
 特注）をうめアンカーとする。あとは稜線までジャンプ。雪庇はた
 したことなく楽勝でした本隊をfix通過させて合流

B 本隊 L 須貝、吉田、新田、二保、藤元、片山、田中、羽織田、藤本

T.S. (7:45) - 稜線 (10:25) - 崖登り (13:10) - 別山乗越 (15:15)

1pick目から急登を苦しい息がとれた。稜線まで1Pのfix
 通過、ここで先発隊と合流する。稜線では崖登り、薬師、壁が
 よく見える。崖登り際の吹上げが強く雪庇のたきが程遠い。乗
 越は、風が強くなったり、強くなったり。別山乗越がぼろぼろに
 見えた。登るにつれて（一時的に風がたつた）段々強くなってくる。
 途中、雪がクラストして1130のワカンが、アイゼンにはつかえる。
 快適にアイゼンもまわして登るかな。ななほ一本の音がする。（特に1年生
 全員が）ハテ始める。風がかなり強くなってくると目もあけていら
 れない。別山乗越まで休めたいのだけれどもドゥと疲れがてきた。
 風が非常に強く地吹雪。小屋に入りやると生じた心地だした。

12月23日 ⊗

視界がきかず、また風強く 氷殺

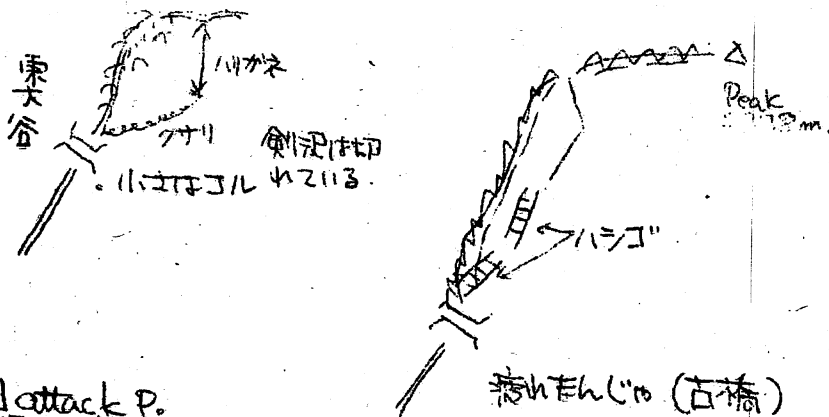
12月24日 ⑧ 山登り

A. 剣岳 attack 隊。古橋, 吉田, 藤元, 片山
 小屋(6:50) - 黒百合の谷(7:40) - 平蔵の谷(10:00) -
 剣Peak(10:30) - 平蔵の谷(11:00) - 小屋(14:00)

子ながら登り下りをくり返し、下降に行きつかり剣沢へとルンゼ
 を下り黒百合の谷へ。一般剣はほとんど越え、黒蔵の谷へ。
 ここなら前剣の斜面に取付ま(上部はやはり急)平引にあって
 小まな谷へ。ここよりくつりなアサイレニ2.1 picke(剣沢
 側をまよふ)。また門への下降へは、くつりなあって少々手こ
 しいな、ほとんど下降、平蔵の谷への下りな雪壁にたどり、
 アサイレニ(SNOWは融定している)平蔵の谷に小屋の東大谷
 側へ下り、おこを登り、上部のくつりなをたどり、おこへ、またはPeak
 まで、簡便 Peak手前はアサイレニにたどり、

<前剣の登り>

<平蔵の谷の登り和峰の登り>



B 立山 attack P.

古橋, 吉田, 藤元, 片山, 田中, 藤本
 小屋(7:00) - 小屋から800mほど(7:25) - 小屋(7:35)
 強風の中を御前小屋を本巻、一時朝日や剣が見えただ、可
 視界がくすんだ。地吹雪のため、リターンして小屋または沢。
 剣P.の側は屋の中心配する(天候不順を引かぬかと思つた)

(田中)
 * 剣P.話を聞くと風は思ったほど強くはなかつた。立山の方
 は壁面から風が吹いて強かつた。

12月25日 ⑥→⑦ クリスマス WHITE CHRISTMAS

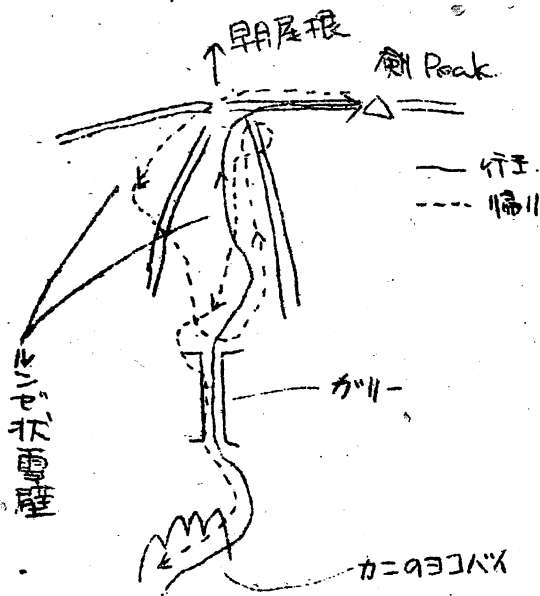
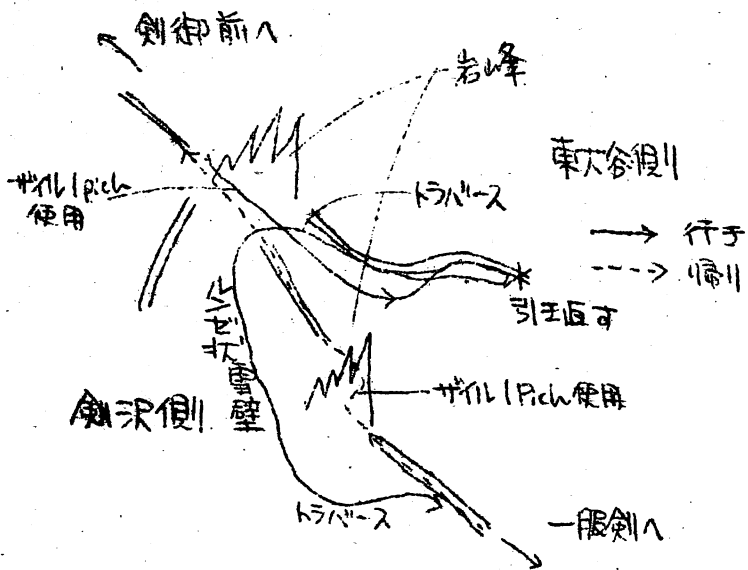
A. 剣岳 attack party L 須貝、二俣、師田、下田
(第2次)

小屋(6:55) - 剣山荘の近く(9:30) - 平蔵のコル(11:35) -
剣岳本峰頂上(12:35) - 平蔵のコル(2:00) - 小屋(5:30)

風雪の中を剣を目指す。濃曇と降雪のため視界きかず。剣岳前及らの下りを東大谷側へ迷い込み登り直す(ここはザイル(Rock)使用)再び稜線に戻りルンゼを下りれば早く先ほど剣山荘が右手に見えてきた。一足剣を越え、前剣、ゆり、無靴に通過する。東大谷側及らの吹雪では無い。降雪で視界は悪く、深雪のラセルに悩まされる。平蔵のコルに着き小屋に逃げ込み X になる(小屋は対利雪が入りていて4人かき)ここはザイルが手を買って取れ(剣山の最後は attack になる。その後はザイル pick、その上のカリーを登り降り10311、11) 剣岳頂上を登ると Peak の稜線へ登り降り、そして降雪の剣山頂上へ上りておろし下山になる。[及(視界不良のため)ルートを見失い再び Peak へ戻り稜線に下降、そして再度現在不明となる。やむを得ず Peak へ戻るとして、見覚えのある地形を見つけ、やむを得ずカリーの入り口に立ち、それを回収し平蔵のコルにたどりついた。早く帰らねばと思つても、新雪に足をとられ思つたに健まなり更に前剣及らの下りルートを発見し履痕を右に左にトウバーして、やむを得ず見覚えのある岩峰を目にする。前剣を下り切った時にはエサが木にホツとする(及、剣岳前へ入り岩稜に行手をこえまられる。乗る時はルンゼを下降したとた、カリーのためにルンゼを見落していったのだ。やむを得ずザイル pick 使用、す)に時刻は、4:30 夜のとぼり及自りつた。御前は Peak 及(11)で踵ラテリ ラセルに消耗する。暗く降り、いざ見返り不明となり、2人が4人とも寒焦燥の色が濃くなる。その時突然、カリーが切れた。三日月が輝々と輝きだした。遠く立山が望める。現在地を確認し、ひたすら小屋を目指す。やがて小屋の車輪がくが暗闇にうかんぞ、エ、コルをたつと中からライトの光がさしこむ。あんな思ひ小屋にこぼれ込む。差し出されたエーのうまだったこと。そして(これもセウのせいで)すんでおぼた。あんなあ、あんな時照らしてくれなつたらどうなつていへば <師田>

剣は遠かったが、御前小屋はさりと遠かった <二俣>

死にそうにせびつて、無茶苦茶しんどかつた <下田>



12月

B 山 attack Party

L. 古橋, 吉田, 藤元, 片山, 田中, 三浦, 鎌田, 藤本

小屋 (17:00) - 富士, 折止 (8:55) - 小屋 (10:25)

ガスで視界が20m程風や雨強し。途中、剣山の尾根に入山して、1つ、2つ、碩ヶ池の付近で引玉返す。あまり変化のない稜線。正砂岳目指して進む。天候は良くなるが、正砂岳をま112。富士折止に着く。ここから引玉返すことにはる。帰りは17. ガスがやまず。

みんなよくやっていたと思う。一年生もあんなに天気の悪い中よくやっていたと思うし、2年目の2人も1年生の面倒をみたりよくやってくれた。

こうやって見てみると3年目の人が一番頼りなかなような気がするが、

個人的には、冬の剣のPeakに立てよかったです。帰りは寒に心配したけれど何かが無事戻ったし、いい経験になった。谷を言えば、もてカイルを使つたところも面白かった。(身体的に)。技術的にはまたラセルへたくソ、身にしてみ感じた。それにルートファインリカもダメなような気がする。

またまた解決すべき課題がたくさん残っているみたいなのを改めて感じる。

以上 師田 信人

僕にとっては今でこそ言えるが非常に不安と不安感をもって入山した冬山だった。ネパールより帰って以来、入院なども加わり、合宿にはいつも参加できなかつた。まじり体力的な面での不安で、冬山という厳しい条件で自分の体力がどれだけ回復しているかわからず何か誘因になって併発の炎症が再発するのではなにか心配であった。しかし何とかつめていけて無事下山できて安堵している。またある意味では大きな自信もなした。

次に技術面について。リパつけるのも久しぶり、ラセルも久しぶりという何れもでいい状態で入山した。70以上のが精一杯で3年目としての役割を果たせたが、さすが自分でも堪え難い期間である。その意味では上級生諸氏及び2年目の2人には負担もかなりの点もあると思うが、「山岳部復帰第1弾」ということで、堪えて貰いた

い。

トレーニング不足がたたりにラッセルで足がつたりして迷惑を
かけてしまったが、たいていコツはきものをつかみ、いらがムクな方
を使わずにラッセルするこしができるようになった。しかし下りたから
よかたか登りだつた方々々々バテただろう。

下界に下りて到着してみると、もうあんなに長い山行はいやだとい
う感がまた、下山直後の時とは別に感じられる。しかも僕には
比較的短い山行の方が何いているようだ。しかし今回の山行に甘ん
ねるに満足している。

以上 藤本 泰弘

今山を降りて思うこしは「しんどかった」というこしです。

第一に長期に渡る山行、17日間という長さは、初めての経験
です。半月以上という圧迫感、山行中よりも山行後の方が
感慨が深かったです。

第二は冬の剣山域というこしです。山行前には未経験未知
であつたため、不安感と共に、たいへん魅力が有りました。でも現実は
そんなに甘いものではなく、たいへんシビアでした。伊折から馬場
島へ向う途中、見えがくれした剣は威風堂々として、たいへん立
派で、また美しくもあり帯をひらませてくださいました。半日だけし
たが、せめてものなくさめで、それで満足しています。

第三には冬山下の技術。これはラッセルの辛さを、ひしひし
と感じました。パーティ全員もつたつたと思うのですが、雪
の深さにうんざりして全く、ト、フ、ツバに立た時には閉口
しました。「もう、いや」というのが素直な感想です。

以上 田中 誠司

入山前に自分では充分トレーニングをやったつもりでしたが、御前小舎に入る時、バテてしまったのは、穴があいたら入りたい思っていました。

剣Attackの上級生が、顔面を凍らせて帰ってくるのを見て、あの時ほど、上級生を上級生らしく感じたことはないほ心すこいと感じました。

空室からのラセルは、シビアしかいいようがありません。ああいうところは、スキーで、あんたら、行ったら楽しいのではないかと思います。

以上 羽鎌田 尊

値段はSIMACパンとあまり変わらなかった。
尚計算では1人1食 900 cal 前後

ともかく“崩壊した”“スクがない”というのを無視して皆協力して
くれてよかった。“鎌倉へ登るんだ”という冬山の1環であった。

Depoの方は突然決まったこともあり人数もはっきりせず少々混
乱をきたして不備な点があった。乾パンを使用したのは失敗で
あった。かさばかりくって一斗カン9個なてなてしまった。

▷ 梱包

大した混乱もなく、問題はなかったと思う。

▷ 医療

薬品のパックが多くなり過ぎ使用の際 どれほどの薬品が
入っているかがわからず少々まよったように思える。又かせ薬
についても薬の知識がなかったためピリン系か非ピリン系の薬
かの分類をしっかりとできてなかった。

それに加えて二俣氏の反省

▷ Essen ... チーフの藤^元にまかせすぎた。他の係の者は果して Essen
全体を把握しきれていただろうか。アルコールをテボしていた。

Essen 計画をする段階でもっと1,2年生に考えてもらうべきだった。

▷ その他 ... 後半のコースであった大日の稜線については考えが甘かった
のではないかと。雪戻と天候を考え合わせると、予備3日は少なかったの
ではないか。剣 attack 時 ルートファインディングの悪さがはっきりと表
われた。セーター、ペンチカン等も持っていない人がいた。(タレタレ!!)
全員がすべて係の仕事にもっと注意を払うべきだ。入山してから Essen

係に献立等で文句を言ったり、計画書に書かれているガソリンの量に誰も疑問を感^感じなかったり。

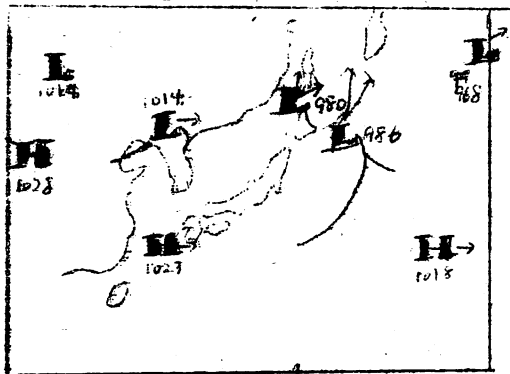
OB留守本部をお願いする時は最低 計画書の原稿をそろえる時までに連絡をとっておかないと、OBの予定等不完全なものとなる。
計画書が

長山協への計画書の送付がふくれた。もともと今までは送っていないが。

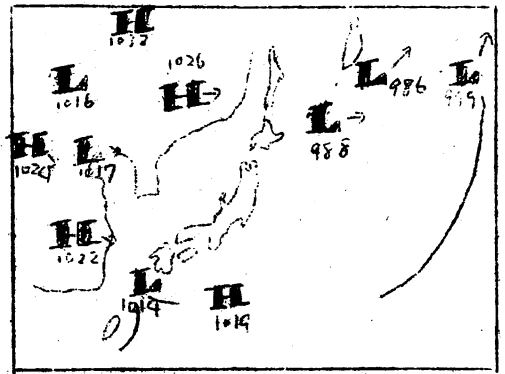
気象

天気図は12/9 中山のゴルゴリ 13/1 追分小屋まで1年中心にとりました。

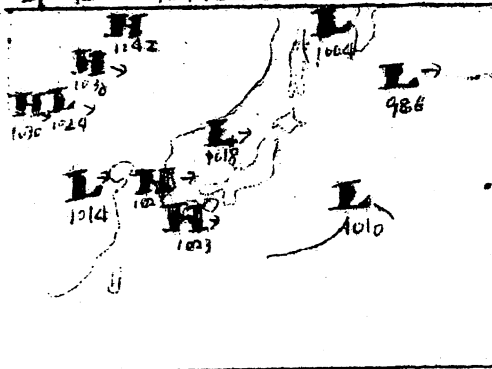
12/9 12:00 中山のゴ



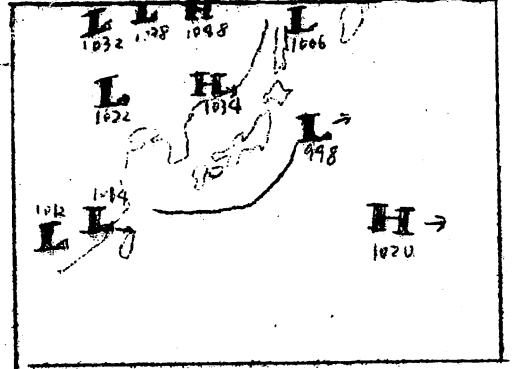
12/20 12:00 ぐズバ山

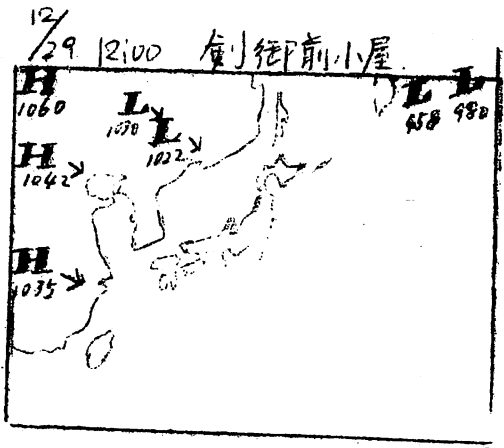
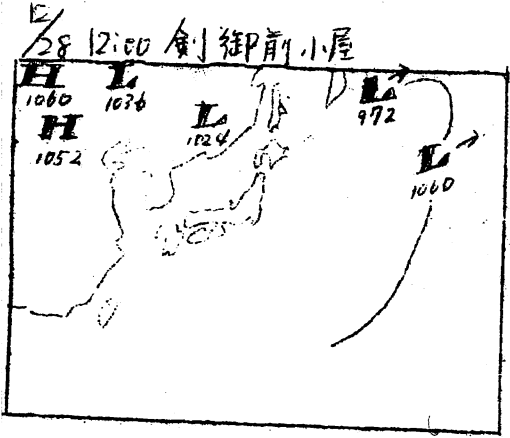
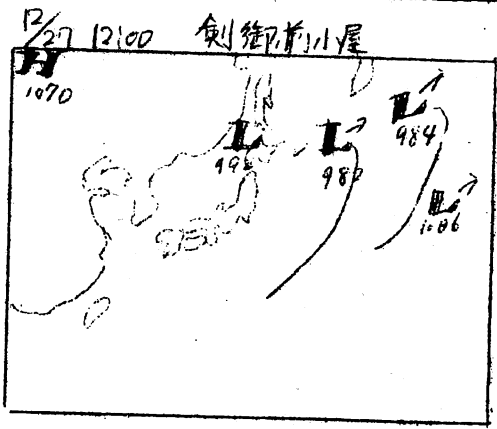
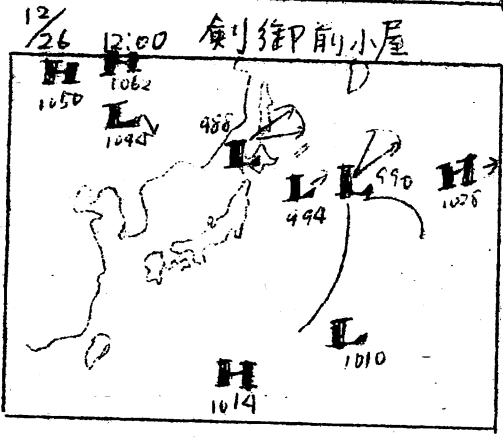
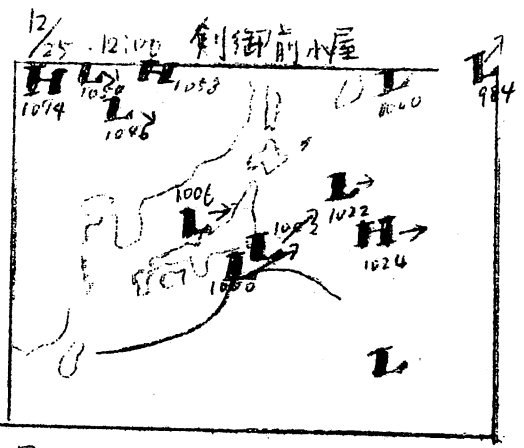
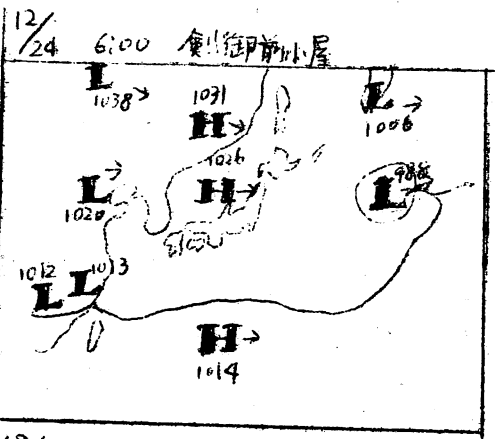


12/21 12:00 西木谷山2100m台地

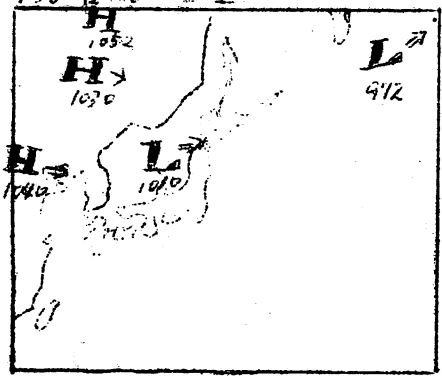


12/23 6:00 金沢前小屋

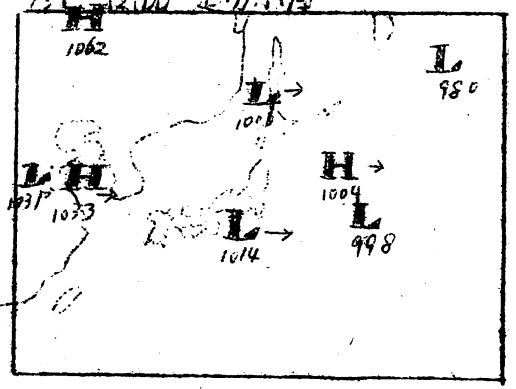




12/30 12:00 室産



12/31 12:00 室産



1976年度
冬山合宿報告書
非売品です
150部
製作 伊那の下らさん
イラストの旧前の松本の
一年生 十おまけ